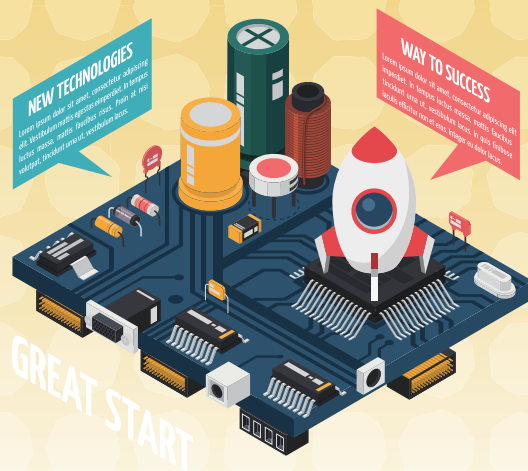


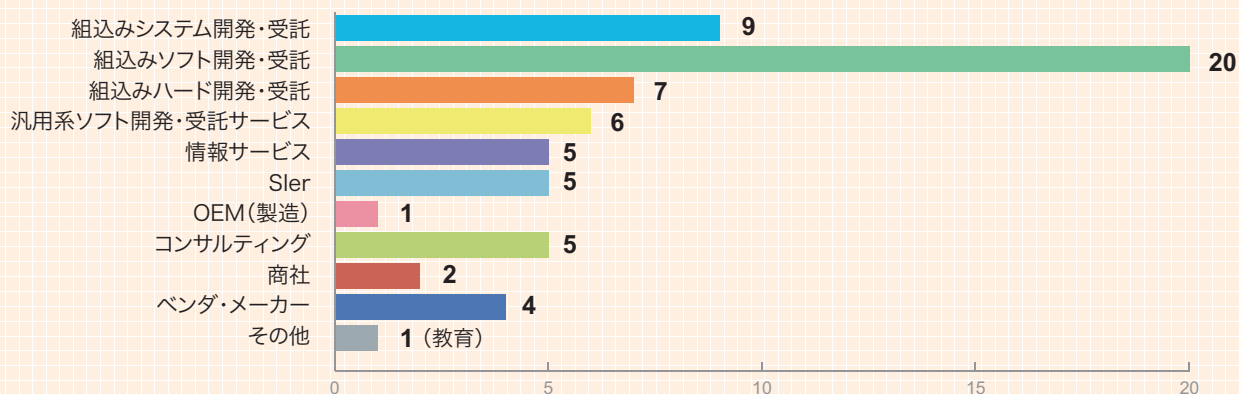
業界2022年の見通し

会員企業 景気動向アンケートより

前年に続き、コロナ禍で迎えた2022年。この2年、その感染状況に成長率が左右されたが、抑制されていた繰越需要の顕在化による景気の押し上げが期待される。反面、仕入れ価格の上昇や半導体不足など供給制約の影響、変異株の動向など懸念材料は少なくない。会員企業はいかに受け止めているのか。「景気動向アンケート調査」から展望する。

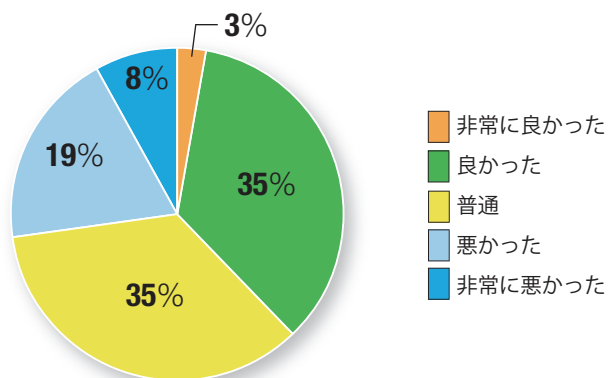


Q1. 回答企業の主たる事業（複数回答）

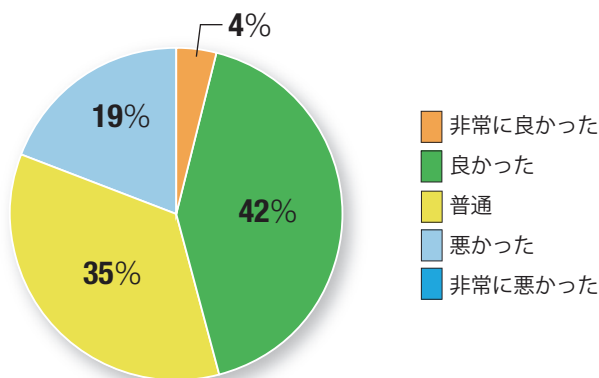


2021年を振り返って

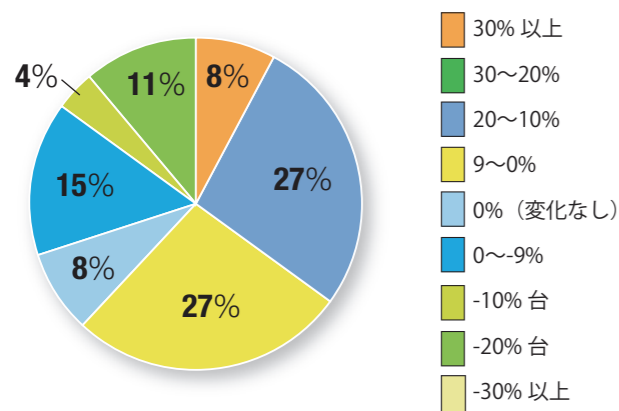
Q2. 2021年の貴社の業績はいかがでしたか？



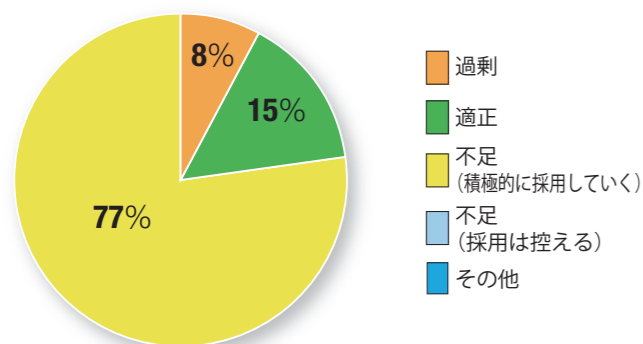
Q3. 前年と比較して2021年の業績は？



Q4. 2021年業績の伸び率は？

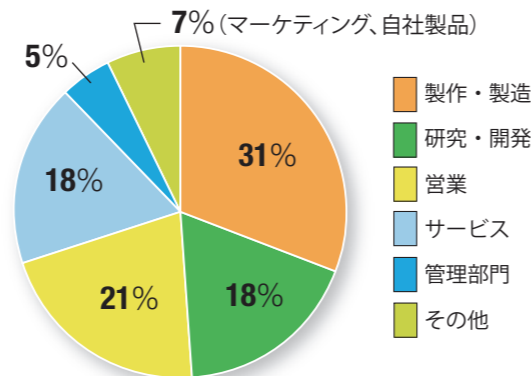


Q6. 技術者の雇用状況は？

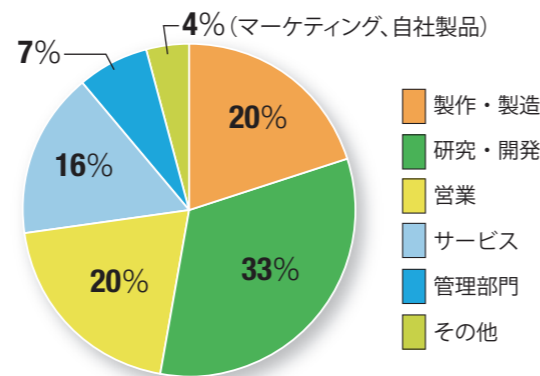


前回調査では「悪い」「非常に悪い」で65%を占めた業績は、今回は普通以上で73%と持ち直した感がある(Q2)。伸び率も、過半数の62%がプラス成長との回答だった(Q4)。

Q5-1. 業績に貢献した部門は？ (複数回答)



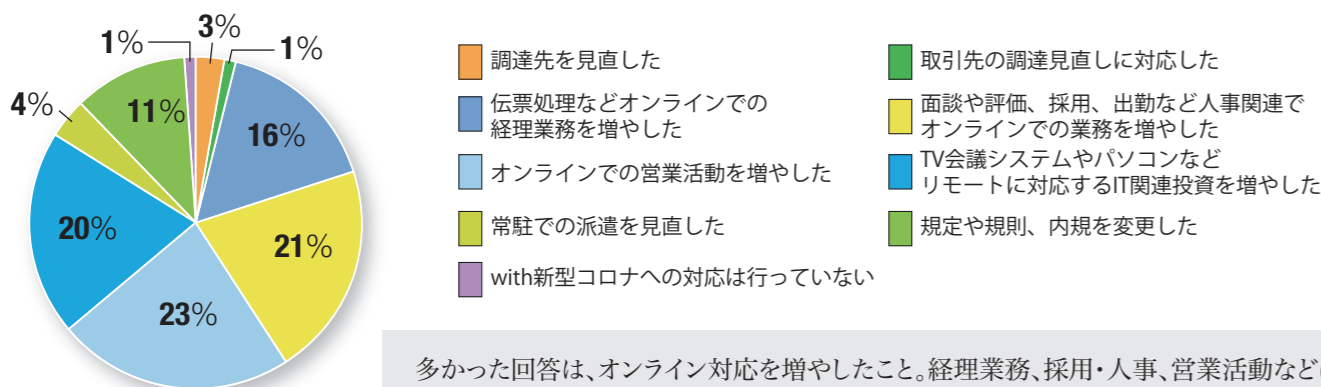
Q5-2. 今後補強したい部門は？ (複数回答)



雇用状況(Q6)を見ると、「不足(積極的に採用していく)」に77%もの回答が集中しており、コロナ禍で採用活動が厳しい結果に終わったことと表れるだろう。

withコロナの対応策

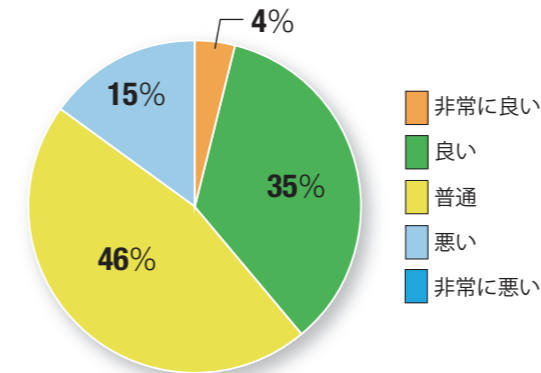
Q7. withコロナに対応するための施策は？ (複数回答)



多かった回答は、オンライン対応を増やしたこと。経理業務、採用・人事、営業活動などに対応、またそのためのIT関連投資を増やしたとする企業が多かった。自社向けの対策と言えるが、取引先との調達や常駐型の案件などの対応は今後の課題となりそうだ。

2022年の景況予測

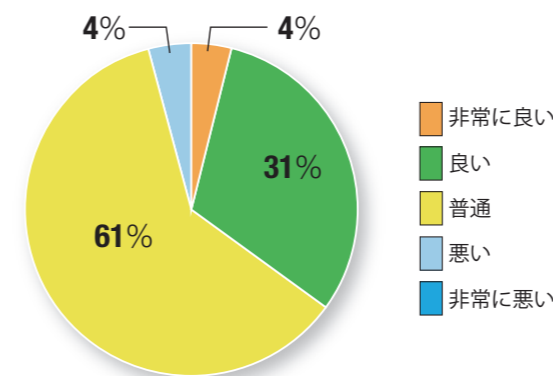
Q8-1. 2022年組込みシステム関係の景況は？



Q8-2. 景況の見立て、その理由は？

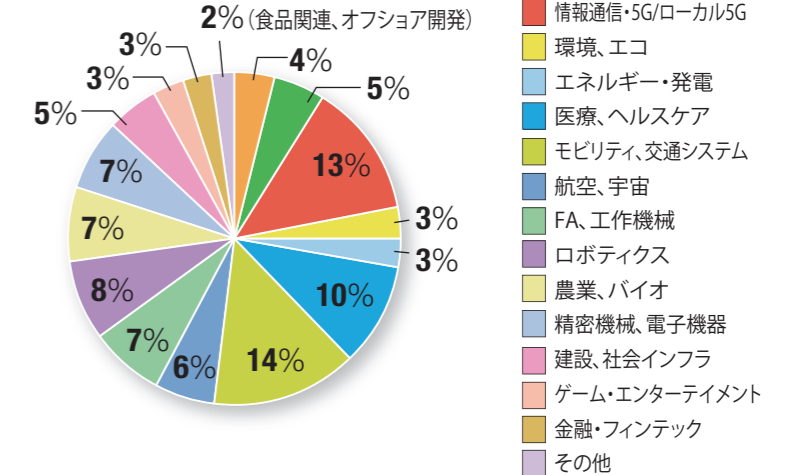
- 「良い」とする理由
ワクチンの普及/システムの自動化ニーズ/景況感の回復/組込み技術は良くも悪くも不変/部材の流通性が良くなれば市場が動き出す/車産業の電動化や通信等のインフラ事業に需要/コロナ禍で中小企業のデジタル化が進展
- 「普通」とする理由
2021年並み/半導体不足がまだ回復されない/コロナに関わらず業界自体が厳しい/コロナによる物流の乱れ/拡大する予兆はあっても不透明/半導体不足で新規開発が抑えられる/コロナからの回復が緩やか
- 「悪い」とする理由
内製化の動で社外への開発委託が減る/コロナウィルスの影響/半導体不足の影響が続きそう/原油や原材料の高騰による川下企業の業績低下

Q9. 2022年の貴社の業績は？



業界の景況をどうか(Q8)。「非常に良い」「良い」と見る企業が約4割あるが、約半数が昨年並みとも言える「普通」と回答。やはり半導体不足やコロナの影響など、不透明な要因に左右されることへの懸念が残る。とはいえ、Q9の回答ともども「悪い」の

Q10. 成長を期待する分野は？ (複数回答)



割合が少ない点は明るい材料と言える。期待分野(Q10)の上位3つは前回同様に「情報通信・5G/ローカル5G」「医療、ヘルスケア」「モビリティ、交通システム」。それぞれ市場も活性化し、大きく飛躍する企業もありそうだ。

Q11. 2022年貴社にとってのキーワードは？

■キーテクノロジー、応用分野関連

- AIとシステム自動化
- メディア
- 医療
- 公共
- エネルギー
- GNSS
- DX(デジタルトランスフォーメーション)
- IoT

■自社の環境改善・意識改善、新戦略

- オフショア注力
- 顧客価値の創造
- 新規顧客獲得
- 感動提供
- 顧客満足度向上
- 新規市場の開拓
- 新状態の定着
- 体制変革
- 変革へのチャレンジ
- 未知と変化への挑戦
- マネジメント強化
- 技術者の育成と新技術の挑戦
- Challenge Plus100
- 必死
- 自社開発ソフト関連
- 緩やかな経費回復